

平成24年度 第2回CCC体育学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年7月26日（木）17：00～19：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：田附委員 石塚委員 手塚委員
（事務局）井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV 議事概要

1. 資料確認

2. 本日の検討事項について確認

- （1）教育改善モデル実現に求められる教育力
- （2）教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題

3. 教育改善モデル実現に求められる教育力

（議論の内容）

- ・他の授業と違い、卒業までに学生主体の授業を発展的に展開していく。
- ・体育学授業デザインのねらいや授業の仕組みの側面から検討。
- ・体育の教員として最も大事なことは、運動の情報分析ができる専門家ではなく手本を見せられることが基本であることから検討。

【1】教育改善モデル実現に求められる教育力

- ①授業のカリキュラム上の位置づけを十分に理解し、教員相互による話し合いの中で教育方針に沿った授業を実施、工夫・改善できること。
- ②多様なスポーツ歴を有し、モデルを示した上で指導できること。
- ③身体運動を通じたグループ活動の授業シナリオを開発し、運営できること。
- ④学生の身体の動きや会話から一人ひとりの達成度合いや問題点を抽出し、その場でフィードバックできること。
- ⑤学習ポートフォリオから、言語化された学習上の問題点を抽出し、対面やネット上で適切な指導ができること。
- ⑥隣接諸学科の教員や実務家と積極的に協働して、競技力向上に関わる戦略的な思考を指導できること。
- ⑦スポーツを通して社会との接点を見出し、普及・振興に関われるよう指導できること。

【2】教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題

上記、【1】でまとめた教育改善モデル実現に求められる教育力の事項に沿って議論・検討し、以下のとおりまとめた。

（1）FD活動

- ①教員間の連携をもとに授業内容と教育方針との整合性の確認および検討を継続的に行う必要がある。

- ②未経験や不得手なスポーツ種目を含む様々な実技研修会に積極的に参加し、自己研鑽を積極化する必要がある。
- ③教育方法や到達度評価に関する研究報告会に積極的に参加し、教員同士が教え合い、学び合うことが必要である。
- ④運動観察能力の向上を図る研究会に積極的に参加し、授業、実技指導にフィードバックできるようにする必要がある。
- ⑤学際的な研究報告会に参加し、関連分野の教員や社会の専門家などと意見交換を行い、教育研究力を高める必要がある。

(2) 大学としての課題

地域との連携、人材確保を中心に検討し、以下のとおりまとめた。

- ①地域スポーツの普及・振興に積極的な取り組みを大学として行う必要がある。
- ②関連分野の教員や社会の専門家などから協力を得るために、連携の呼びかけ、制度の整備、専門性を有した正規職員の確保および財政的な支援を行う必要がある。
- ③ICTを活用した教育方法を支援する組織を大学として整備する必要がある。

4. 今後の検討事項

- ・学士力実現に求められる教育改善モデルの検討
- ・学士力の到達目標（到達目標設定の背景と解説含む）

V. 次回の開催予定

日時：平成24年9月10日（月） 19:00～21:00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室